

星の子通信 2

～チーム星宮小のみなさんへ～

R元年.12.4. No.13

文責 新井麻起



先生方の活躍ぶりや授業等の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～「見方・考え方」を働かせた「深い学び」への指導方法の工夫～に取り組んでいます。
「年に2回は公開授業」を合言葉に11月29日(金)に行った授業を紹介します。



2年 木部 美輝 教諭 教科 道徳 教材名 絵本「あやちゃんがうまれたひ」

【学習内容への導入】

【絵本を通してそれぞれの人の気持ちを追う】

女性が妊娠し、出産するまでの母親の気持ちや夫や祖父母の気持ちを追いながら、自分たちも大切に思われながら生まれました。そして生まれたことの喜びや苦労を知り、親に対する感謝の念や命の大切さを考える授業である。



様々な動物の親子や赤ちゃんを見せ、本時の学習内容を知る。



絵本「あやちゃんがうまれたひ」を読みながら、赤ちゃんが生まれるまでの母親や父親、家族の気持ちを追う。

【生まれる前のそれぞれの人の気持ち】

【母からの手紙の朗読】

【人形の赤ちゃんを抱いてみる】



「赤ちゃんがなかなか生まれなかったとき、お母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんは、どんな気持ちだったでしょう。」



保護者の代表の方に、子どもが生まれるまでの大変さやエピソード、生まれたときの喜び等が書かれた手紙を読んでもらう。



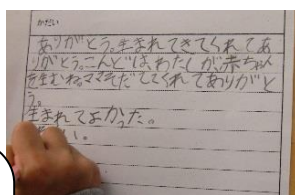
原寸大の赤ちゃんの人形を優しく抱いてみる。

【母親からの手紙を読んでいる】

【本時の振り返り】



他の児童も母親からもらった手紙を真剣なまなざしで読んでいる。時には微笑んだり、涙を流している児童もいた。



今日感じたことや考えたことをプリントに書いている。例：「自分がこんな風に生まれたんだな一と思った。」「パパとママと一緒にへその緒を切ってくれてうれしかった。」

○母親や父親、祖父母の心情を追ったり、母親からの手紙を読んだりすることを通して、自分の誕生を待ちわびているのと同時に、無事に生まれるよう心配していたことや、自分を生むときの大変さや自分は色々な人から大切に思われていることを考えることができた。